



洋型の墓石

墓石に必要な保証とアフターフォロー 口約束はNG。書面にて確実な事前確認を。

墓石は長期間、先祖をまつり、故人をしのぶ墓のしるしとして欠かせません。ちょっとしたポイントが分かったら、納得できる墓石にたどり着くことができます。必要な知識や石材店との交渉方法について考えてみましょう。



和型の墓石

「見積もりは書面で

墓石のトラブルで多いのが価格といわれています。原因の一つが価格の提示を見積書でなく、口頭で行う石材店が多いことです。

客の要望がなければ、見積書を出さないという業者が一部あります。また、見積書を要求しても、理由を付けて出さない業者もあるようです。

見積書が出てきても、大ざっぱで石の種類など詳細の項目がないこともあ

「軟らかい石は避ける

良い石の3要素は、水を吸いにくい、硬い、模様が均一であることです。石は水を吸うと変色したり、ひび割れしやすくなったりします。また、硬いほど磨いた後のつやもちが良くなります。保証期間は必ず確認するようにしましょう。石そのものに欠陥があった場合は、だいたい1〜3年で現象が現れますので、保証期間は5〜10年あれば十分と言えます。

墓石の種類ほとんどは花崗(かこう)岩(通称御影石)です。ほかに安山岩(斑輝(はんれい)岩、閃緑(せんりょく)岩などが使われます。香川県の高松市、愛媛県の大島市、神奈川県の本小松石などがブランド石として知られています。大理石は材質が軟らかいため、墓石用としてはあまり使われていません。花崗岩に比べて、安山岩軟らかく、劣化が早いといわれているため、避けるのが無難です。また、潮風を受ける墓地では、潮や砂で石の劣化が早くなるため、硬い石を選ぶといえます。

「図面、仕様書の確認を

家を建てる時には必ず図面や仕様書がありますが、墓石の場合は業者が図面や仕様書を出さないケースがあります。図面や仕様書がなく、口約束だけだったため、完成した墓を見に行ったら、注文したものと違う墓が建っていて驚いたという事例もあります。また、知らない間にオプションがついていたということもあるため、事前に図面と仕様書の確認が必要です。

図面では立派に見えたのに、完成した墓は意外に小さかったという事例も少なくありません。契約前に図面と同一

「総予算は全国平均183万円

葬儀、仏壇、墓に詳しい鎌倉新書(東京)の清水祐孝社長によると2012年の調査で、永代使用料と墓石の合計金額の全国平均は183万円になります。

価格帯ごとに分析すると、一番多い割合を示したのは、150万円以上200万円未満で31%。続いて100万円以上150万円未満で21%、200万円以上250万円未満17%、100万円未満14%となりました。どの価格帯にも偏らず、まんべんなくさまざまな価格帯で購入していることが分かります。

ります。

そのためトラブルになった時も水掛け論になり、客が泣き寝入りしなければならぬケースが多いようです。

見積書で必要な項目は墓石代、加工代、付属品代、文字彫刻代、工事代などです。

墓石代については石の種類、産地を必ず確認し、石の量も出してもらうと比べやすくなります。

石であつても年月がたつと傷ついたり、欠けたことがあります。傷んだところを修理しようとしても、珍しい石の場合は、同じものがないこともあるため、部分的な修理ができないケースがあります。花崗岩など一般的な石であれば類似品が多く、直しやすくなります。

現在流通している墓石の大半は中国産です。40年ほど前までは、国産がほぼ100%でしたが、90年代ごろから価格競争力のある中国産石材を輸入するようになりました。物価上昇を続ける中国で石材価格が高騰したことに加え、墓石の小型化も影響して、石材輸入量は10年前の約7割に低下しています。

国産と中国産では石自体の優劣はないといわれています。まれに中国産の現地の加工で、研磨の工程を省略する、ひびを隠す、光沢を出すために薬剤を塗ることがあるようです。そのため、墓石建立後に薬品が剥け落ちたりひびが出てくる場合があります。

じサイズの墓石を実際に見ておくことも重要です。また、高齢者の墓参を考えると、段差をつけないようにするといえます。

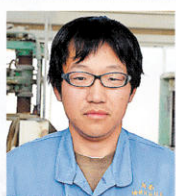
墓石のタイプは大きく分けて、昔ながらの「和型」とオルガンのような形をした「洋型」があります。

洋型は和型に比べて使う石の量が少ないため、同じ種類の石を使った場合は、和型よりも安くできることや、安定感があつて地震が来ても倒れにくいことなどから、最近では洋型の数が年々増えています。

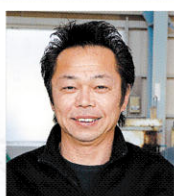
地元石材店によると、静岡県西部地域は、全国比較で墓地区画が狭いため、お墓の予算は60万円から150万円くらいが多いようです。

同じ石を使って、同じように見える墓石でも、石材店により墓石の形状や石材の使用体積が異なるため、結果として値段も違ってきます。墓を建てた後のこともよく考え、石材店選びをしましょう。墓を建てた後も石材店との付き合いは続きます。

墓石に関することなら信頼と安心のお店。何でもお気軽にご相談ください。



横村石材店(湖西市)
横村 達也さん(35)



村松石材(浜松市北区)
代表 村松 孝基さん(50)



近藤石材店(湖西市)
近藤 修さん(41)



井口石材店(浜松市北区)
井口 貴詞さん(47)

こんな
石材店には
ご用心

- ☐ 価格の説明だけで、品質の説明がない。
- ☐ 驚くほど安い。
- ☐ 他店の見積金額によって提示する金額を変える。
- ☐ 即決を要求する。
- ☐ 取り扱っている石材の名前や産地を答えられない。
- ☐ 大幅な値引きをする。

関西の骨壺は関東に比べ小型

豆知識

遺骨を拾う「骨上げ」は関東が全て持ち帰るのに対し、関西では、のど仏など一部を回収するにとどまります。そのため、関西で葬儀の際に用いられる骨壺は5寸(約15センチ)程度と、7寸(約21センチ)が主流の関東より3割以上小さくなります。

収骨方法の違いは墓の造りにも影響を与えています。墓の下に遺骨を安置するカロート(納骨槽)は、関東では骨壺ごと収めるため、奥行きのあるスペースを用意しています。一方、関西では骨壺から取り出した遺骨を布や袋でくるむため、骨壺ごと入れるのは無理な狭さです。関東ではカロートの底はコンクリートですが、関西では土というの大きな違いです。関西では早く遺骨を土に返そうという意識が強いと思われます。

大切なお墓のことは地元「石優会」加盟店へお尋ねください

墓石選びは
地元の老舗石材店へ

— せきゆうかい —

石優会

静岡県西部石材事業者連盟



©浜松市

「石優会」は、遠州地区における墓石の品質保持、サービスの向上を目的とし、浜松・湖西を中心に地元の老舗石材店で結成された石材事業者連盟です。

このロゴが
目印!

1 松井石材店
浜松市中区野口町383
☎053-461-9628



2 浜名石材(有)
浜松市西区雄略町宇布見4967-1
☎053-596-1483



3 (有)大場石材
浜松市南区若林町345
☎053-448-2840



4 (有)松尾石材店
浜松市浜北区小松3500-1
☎053-586-2582

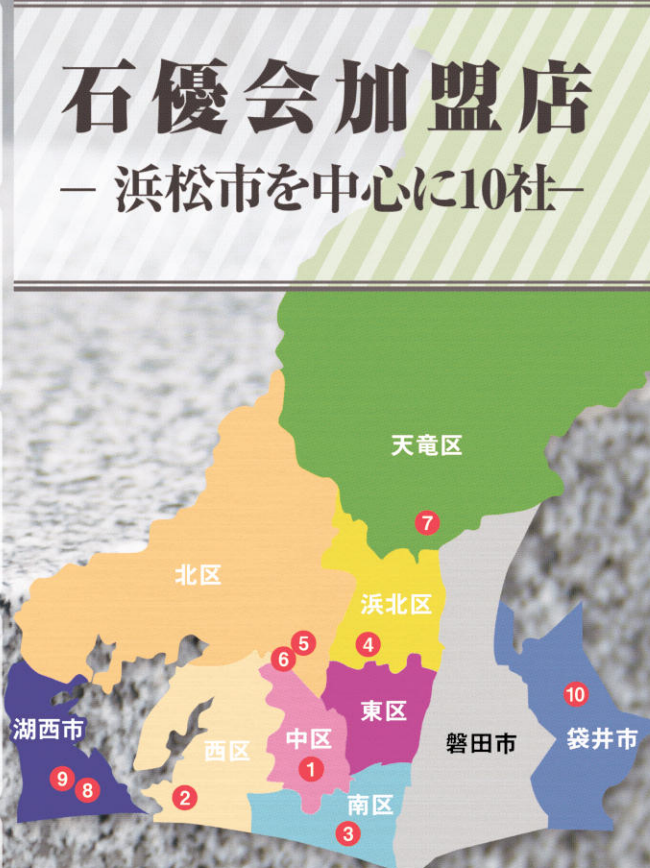


5 (有)井口石材
浜松市北区根洗町1214-3
☎053-436-9525



石優会加盟店

— 浜松市を中心に10社 —



6 村松石材
浜松市北区三方原町2271-5
☎053-436-4713



7 (有)大谷石材
浜松市天竜区二俣町二俣1376
☎053-925-3577



8 近藤石材店
湖西市新居町中之郷4051
☎053-594-1448



9 (有)横村石材店
湖西市山口630-26
☎053-576-0411



10 野元石材
袋井市久能2329-14
☎0538-43-7417

